

# 学内広報

2023.11.24

no.1576



ホームカミングデイの本郷キャンパス・懐徳館庭園一般公開（10月21日）



普段は入れない  
国指定文化財!



柏キャンパス一般公開2023に行ってみた  
奥深き「第二食堂建物」の世界

4年ぶりに実地開催となった年に一度の祭典を体感レポート

# 柏キャンパス一般公開、

A●では印象的だった企画を語りましょう。1は「サケの一生」をテーマにしたバルーンアート。躍動感あふれる2匹の巨大なサケは圧巻でした。製作者は大気海洋研究所の卒業生で、バルーンアーティストの須原三加さん。

K●迫力あったね。2はトラザメという小型のサメ。サメと言ってもおとなしくて、普段は岩陰などに潜んでいるらしい。3は「星砂」という星の形をした有孔虫の抜け殻を探す催し。子供も大人もループを使って星砂探しに夢中になってたよ。

## 鍋で煮込んだサルノの骨！

A●4は木の椅子に腰かけると鳥のさえずりなど森のライブ音が聞こえる「森おといす」。志賀高原にある信州大学志賀自然教育園のライブ音だそう。目を閉じて「森のおと」に耳を傾けるとマイナスイオンを感じられたような……。5はニホンジカやキョンの骨。他にもニホンザルやワニの骨が展示されてました。きれいな骨の状態にするために、一週間くらいひたすら鍋で煮込むこともあるそう。K●一週間！確かに骨付きチキンを長時間煮込むと簡単に肉が剥がれ落ちるよね。

A●6は「シロイヌナズナ」というペンペン草の仲間。根の先を切って培地に置いて育て、もこもこした葉っぱが生えてきました。植物がもつ高い再生能力のメカニズムの研究に使っているんだって。7はイトヨというトゲウオ科の魚。海から川や湖などに進出して、新しい環境に適応してきたそう。イトヨが描かれた缶バッジをもらえました。8は蛍石や砂、植物を小さな瓶に入れてテラリウムが作れるワークショップ。ピンセットで瓶の中にバランスよく配置するのが難しかった。

K●9は広報課のSさんが見学した富士通製のスパコン。スーパーコンピュータームを隅々まで自由に見学できたんだって。床下の配線の美しさに驚いたと言ってたよ。10は実験の際などに使う様々なマスク。他にも特殊な手袋や靴などが展示されてました。11は核融合実験に使う2mくらいの高さの装置。核融合反応を起こすためには高温にしなくてはいけなくて、この装置では500万度くら

大気海洋研究所  
海洋生物研究の現場を  
みてみよう



物性研究所  
鉱物で遊ぼう



情報基盤センター  
スパコンルーム公開



環境安全研究センター  
安全保護具の紹介



新領域基盤系  
プラズマで変える！  
将来宇宙技術



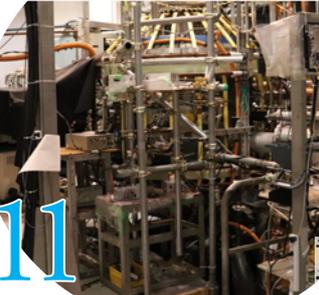
大気海洋研究所  
星砂をさがしてみよう



新領域環境系  
森のライブ音配信  
「森おといす」



新領域基盤系  
トカマク型核融合実験装置



宇宙線研究所  
マイケルソン干渉計で  
音楽を聴こう！



千葉県  
チーバくん



# 行ってみた

10月27～28日に行われた柏キャンパス一般公開2023。コロナ禍を経て4年ぶりのキャンパス実地開催となり、本部広報課のAとKが27日に会場にお邪魔しました。様々な催しや展示を見学し、各々が遭遇して「いいね」をつけたくなったものについて、個人的感想中心の会話風原稿で紹介します。



新領域環境系  
骨にさわってみよう

6



新領域生命系  
こんなにかわいいのに実験生物なの、なぜななぜ?



新領域生命系  
水環境と生命

7

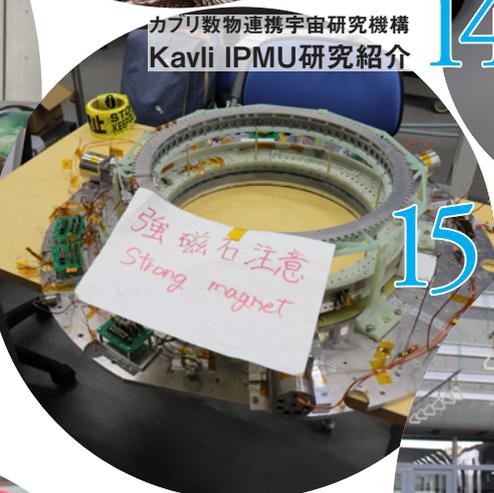


空間情報科学研究センター  
空間情報の高鮮明化と高度利用



生産技術研究所  
次世代ホログラム技術

16



カブリ数物連携宇宙研究機構  
Kavli IPMU 研究紹介

15



モビリティ・イノベーション連携研究機構  
鉄道車内空間実物大モックアップ

17



産学官民連携棟  
いきものカタチに電子で迫る!

18



文書館  
戦前の「帝大生」にせまる

19



物性研究所  
フォトブース:  
物性犬  
10周年

20

いのプラズマを作ることができるそう。A●12は小型人工衛星向けの推進機。通常の推進機にはキセノンというガスを使うけど、これは水を使うので環境にも優しいし、安いという利点があるんだって。手のひらに収まるサイズに驚きました。13はレーザー干渉計を組み立てて音楽を聴いてみるというワークショップ。音楽が光の干渉で伝わるのを確認できるそう。

## 奈良盆地のスマホケース

K●私の一押しが14の3Dプリンターで作った模型やiPhoneケース。レーザー装置やカメラなどを搭載したドローンを飛ばして計測した自然景観データで作ったもの。スマホケースは奈良盆地の地形形だよ。15はビッグバンより前の宇宙を探索する壮大なプロジェクト用の偏光変調器というもの。「Strong magnet」の注意喚起があったので、スマホを遠ざけました。

A●16は浮き上がって見えるホログラフィ。空中に浮いているように見えるキーボードといった応用もできるとか。特殊なホログラフィを窓ガラスに貼り付ければ太陽光電池にも使えるんだって。

K●17の実物大の電車の車両も目を引いたよ。4人掛けの対面シートだと、なかなか満席にならないけど、5人掛けなど変則的な配置にすると人が座ってくれやすい、などといった評価実験に使用したそう。気持ちよさそうに寝ている人も……。18はSさんが見学したクライオ電子顕微鏡。生体内の構造を染色せずそのまま凍らせて観察ができる、というものだそう。顕微鏡が動いている間は、保守などのために人は配置されていないんだって。19は明治19年に制定された学生服制やキャンパス内の落とし物などが記載された文章。落とし物には聴診器まで。20は物性犬10周年を祝うインスタ映えしそうなフォトブース。大人気のぬいぐるみは売り切れでした。

A●千葉県のマスコットキャラクター「チーバくん」の姿も。バス停の近くで来訪者に愛嬌を振りまいてました。K●今年は柏の葉キャンパス駅前にもブースを出展。28日の特別講演会も大盛況だったそう。次回も楽しみです!

## もとは学生会館？ 総長記念館？ 学寮？ 運動施設？ 事務オフィス？

2023年10月

1934年4月

「キーワードは  
「増殖」と「未完」

## 奥深き第二食堂建物の世界

写真提供：東京大学総合研究博物館

10月6日、本郷の第二食堂で注目のイベントが行われました。連携研究機構のヒューマニティーズセンター（HMC）が東大生協とともに企画したHMC「リエゾントークⅦ：奥深き第二食堂建物（ニシヨク）」です。非常に複雑な成り立ちを持つのが二食の建物。その歴史を建築史と文化資源学の研究者が各々の視点から追いかけて、発表した約2時間。当事者の皆さんに振り返ってもらいました。

## 文化資源学と建築学のコラボ

— どうして二食に注目したんですか？

**松田** HMCと東大生協が復刊本を語るイベントを春に書籍部で開催したら、それが大好評で第二弾の機運が高まり、二食建物は奥深いという竹原昌樹書籍部店長の話を受けてHMC特任研究員の和田真生さんが企画を立案、HMCのフェローである私に声がかかったんです。私は2018年にHMC企画研究「学術資産としての東京大学」のセミナーで建築とキャンパスを論じる角田さんの講演を聴いていました。また、私がいる文化資源学研究室では2011年から「東京大学の埋蔵文化財と文化資源」という授業を開講しています。強谷さんは研究室の博士学生。内田ゴシック好きの彼が学部時代は美術サークルで2階の部室を使ってい

たとも知り、建築史の専門家と組んだら面白そうだと思ってお二人に声をかけました。  
**角田** キャンパス建築についてはいろいろ見てきましたが、二食の建物を調べたことはありませんでした。向かって左だけに広がっていて半端だなどは思っていたのですが。  
**強谷** アクセスできる公的資料があまり見つからず、学生の話に強い東大新聞を漁ったところ、二食の件は1930年代前半に盛んに報じられていましたね。『東大生協史通信』（1995～）『東大生協創設期史料集』（2004）なども読み込んでみました。  
— 強谷講演は「二食と二つの未完」、角田講演は「増殖するキャンパス建築」が題名でした。「未完」と「増殖」が肝ですね。  
**強谷** 未完成の公共建築を文化遺産に見立てて活用するイタリアのアートプロジェクトや、『時がつくる建築：リノベーション

の西洋建築史』で加藤耕一先生が提唱された「再利用的建築観」から「未完」の概念に興味を持ちました。本郷キャンパスには未完の建物が複数あります。二食にも、学生の居場所としての学生会館と古在会館という二つの未完の建物が隠れていました。

**角田** 私は「未完」を別角度

から見て「増殖」と捉えました。昔の図面を調べると改修や増築が非常に多いんです。最初の約4年で2回の増築があって地下のプールが追加され、その後に古在会館の計画ができています。不自然な現在の姿は、図書館団地のように細胞分裂的に広がった結果だったという見方に至りました。

## 雨に濡れる学生が不憫だった総長

— 強谷講演によると、学生控所の代替として学生会館構想が生まれたそうですね。

**強谷** 学生控所が不足し、学生は授業の合間に法文1・2号館アーケードや学外の喫茶店で時間を潰していたようです。二食に臨時学生控所が設置されたのも、小野塚喜平次総長が雨に濡れる学生を不憫に思ったためと東大新聞にありました。

**角田** 学生控所など不要だという工学部の先生の談話もありました。実験室や研究室があればそこで時間を費やせます。昔も部局によって温度差があったんですね。

— 古在総長の名が二食の話に関係して出てくるというのは意外でした。

**強谷** 東大新聞で「古在会館」の名を見たことはありましたが、何を指すのかわからず、私も今回初めて知りました。関東大震災後の復興、農学部と一高の敷地交換など、重要な時期の大学を導いた総長を称える計画でしたが、資金調達は難航したようです。  
— 角田講演によると、二食の場所の管轄は医→理→文と移ってきたそうですね。

**強谷** 食堂なら人が来やすい中央部にあっていいのに、二食は少し外れにあります。各部局にとってあまり重要でない場所だった

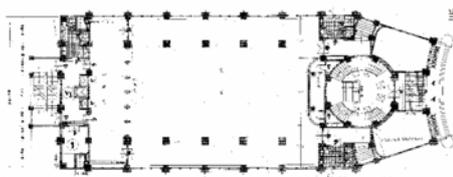


**松田 陽**  
人文社会系研究科  
准教授

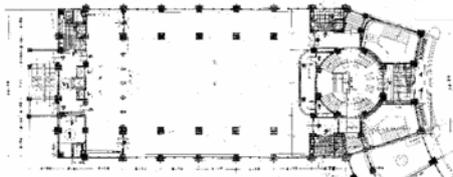
**強谷 幸平**  
人文社会系研究科  
博士課程

**角田 真弓**  
工学系研究科  
技術専門職員

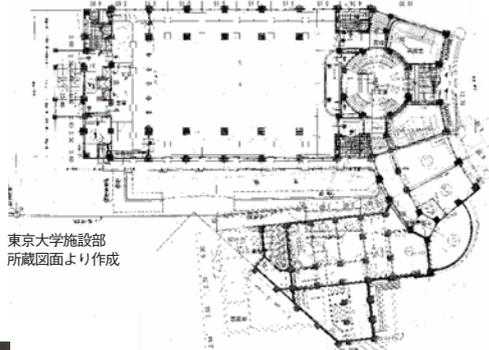
●1933年（当初設計）



●1936年（補工・増築）



●1938年



東京大学施設部  
所蔵図面より作成

**「増殖」する二食建物** 1936年の増築で右翼に2ブロックと曲面部が追加され、1938年の工事でさらに奥へと拡張されることで、いま生協の書籍部が使っているエリアの一部ができました。左翼の壁にあった鉄筋の梁差筋はその後の増築を予感させましたが、現在はなし。1964年撮影の写真には写りますが、いつ頃に外されたのかは定かではありません。



古在由直 第10代総長

写真提供：東京大学総合研究博物館

**二食建物関連年表（強谷さんまとめ）**

1923	関東大震災による学生控所の焼失
1924-1925	第一次学生会館設立運動
1929-1930	第二次学生会館設立運動
1934	二食建物の竣工と臨時学生控所の設置 二食建物の学生会館化構想の公表
1936	古在会館の募金開始 二食建物の増築・プールの設置
1938	二食建物の増築 古在会館の設計案承認・着工延期
1946	第二食堂の協同組合食堂化 弥生学寮の開設
1948	古在会館募金の学寮建設への流用

二食建物をめぐっては、学生の授業の隙間時間の居場所や課外活動の拠点となる学生会館、古在総長の功績を記念する学生施設である古在会館という二つの増築構想がありました。

たとえようとちょっと納得です。

**角田** 二食のある辺りは本郷通り側にくらべ地盤が低く、埋立されたエリア。固い地盤に杭を打つには深く掘らないといけないため、結果的に地下に大空間ができました。もっと西側だったら、地下にプールを作る計画は生じなかったのかもしれない。

**なぜか二重になった裏階段がある**

—裏手にある謎の二重階段の話もありました。

**角田** 学外でもあまり見かけないものです。表階段なら上りと下りを分ける意



味がありますが、裏階段ですからね。最初からこうでしたが、その理由は謎です。

—書籍部奥の段差の話も新鮮でした。

**角田** 以前は半地下と中二階にわたる形で床面があったはずですが、増築後もその痕跡を残し、変化の過程を想像させます。書籍部内には柱が多く、本を扱う際の使い勝手は悪いそうです。

—左翼の壁からは鉄骨が出ていたとか。

**角田** 昔の写真では確かに残っていて、増築に使えただけですが、いまはありません。二食建物は内田祥三の営繕課長時代の作品で、図面には内田印がありますが、どこまで本人が直接関わったのかはわかりません。—寮やオフィスまであったそうですね。

**強谷** 戦前の東京帝大は寮を設けない方針

でしたが、戦後の住居難を受けて各所に設置しました。そのうち唯一キャンパス内に設置されたのが二食の弥生学寮でした。この時期には生協職員や食堂従業員も二食に住んでいたようです。学寮の退去後は学生ホールとしてダンスパーティーなどに使われました。また学生の福利厚生拠点にするということか、戦前から医局（保健センター）が入居していたようです。東大紛争の際には学生部も安田講堂から移転してきました。

**東大なら新と旧の「響存」が可能**

—今後の二食についてどう考えますか。

**強谷** まだわからないことが多いので、追加の資料があれば追いかけてみたいです。また一学生としては、未完に終わった学生会館・古在会館の理念を引き継ぐような、学部垣根を超えた学生の居場所や交流に利用できる施設についても何か進展があるといいのですが。

**角田** 施設部旧蔵写真や文書館など、今まで見られなかった内部資料が見られるようになり、これら資料などからの発見も数多くあるので、キャンパス建築についてもっと踏み込んで調べたいですね。法文1・2号館や工学部2号館など、特徴的な増築が多々あります。古い建物と新しい建物の共存を今後も見たいと思います。

**松田** 二食横ではD&I棟の工事が始まりました。新棟建設のほかにもいくつか計画があると聞き、数十年ぶりの二食増殖の可能性もつい夢想してしまいますね。いずれに

**ヒューマニティーズセンター  
Humanities Center**

人文学と隣接諸分野の卓越した研究者により部局横断的に新たな研究協創のプラットフォームを目指すHMC。公募研究・協働研究に参画するフェローが中心となり、「つながる人文学」をテーマに一般向けに開催しているセミナーシリーズが「リエゾントーク」です。2022年4月の「香りと人文学」を皮切りに、すでに9回の開催を数えます（11月現在）。社会と未来を開くためのオープンヒューマニティーズ基金もお見知り置きください。

<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt153>



営業終了後の第二食堂が「リエゾントークVII」の会場に。55名の聴衆が耳を傾け、質疑応答ではマニアックな質問も飛び出しました

せよ、二食建物の歴史性を十分考慮した計画が必要でしょう。150周年に向けて歴史を重視する大学なら、新しいものと古いものを「響存」させられると信じています。



教養教育の現場から

第60回

## リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

## 教育DXにより教養教育の質的転換を図る

／教養教育高度化機構(KOMEX)に新設されたEX部門の5人のリーダーズに聞く

**若杉** 今年度、初年次教育部門とアクティブラーニング部門と自然科学教育高度化部門を統合してEX (Educational Transformation) 部門ができました。教育DX (Digital Transformation) を活用した教養教育の質的転換を目指します。初年次ゼミナールの運営、アクティブラーニング (AL) の普及促進、自然科学分野のEarly Exposure (早期体験) などの取り組みを続けながら、先端技術を教養教育で活用するための検討も行います。

## 不確実な未来に対応できる人を

**岡田** 昨今、世界的潮流として、不確実な未来に対応できる若者の育成が教育に求められています。従来もALや初年次教育に注力してきましたが、部門統合でそれをより推進しようというわけです。

**若杉** 今後の検討事項としては、中高生との橋渡し (高大接続) があります。初年次ゼミ運営のノウハウを活かせるはず。1・2年生と学部・大学院・卒業生との橋渡しも進めたいですね。

**鹿島** 大学進学時のマインドセットの切り替えは世界共通の課題です。私は高校生や東大の1年生に接してきて、かなり

個別の違いが大きいと感じた経験から、自分が担当する少人数制実験授業では「個別最適」を心がけています。特に序盤に個別指導をがんばると、後で学生のパフォーマンスが違ってくると感じます。

**宮島** 初年次ゼミの基本的なスタイルは、学生が主体的に学ぶALです。素材や機会を提供し、おいてけぼりになる学生が出ないように導くのが教員の役割だと思います。初年次ゼミ理科の教科書『科学の技法』(東大出版会、2017年) を改訂するため、いくつか授業を見学しましたが、学生の表現力は以前より格段に上がっています。コロナ禍を経たせいかICT機器に習熟した学生も多いように感じます。

**中澤** 初年次ゼミナールでは、第一希望の授業を受けられない学生が学習意欲を落としがちですが、ALの手法を活用すると、やる気に差があっても周りが引き上げてくれるケースが少なくありません。

**岡田** ○○学とはこういうものだと思いが的を外れだったとか、知らない分野だったが授業を受けたら面白かったという例も多々。教員との会話から活路が開ける場合もあり、面談が不可欠です。

**中澤** 生成AIに関しては、9月に教員向

けワークショップを行いました。

**鹿島** 私の授業では、「寺田寅彦の思考」とは何かを記すレポートを授業中に書かせていました。人力では非常に時間がかかりますが、生成AIならほんの数秒。プロンプト次第で多様な論点が示されるので、最近はその元を元に議論しています。

## 生成AIは答に至るためのツール

**中澤** 私はグループディスカッションの際、ChatGPTを一つのグループとみなして同じテーマを与え、出てきた内容を共有します。学生は自分のグループでは出てこなかった視点も得られ、それを踏まえて議論が深まります。ChatGPTは、答を得るためではなく、答を考える材料を得るためのツールだと思います。

**岡田** 私は、学生が使ったプロンプト、ChatGPTの出力内容、それに返したコメントまで、やりとりをすべて提出させました。これならコピペにも気づけます。

**中澤** 教員がプロセスを把握できれば、不正利用を防げるし、どんなアドバイスがよいかも考えやすいんです。やりとり全部を確認するには手間がかかるので、優秀なTAの養成が重要になるでしょう。

**若杉** 来年3月のシンポジウムでは、そうした生成AIの活用についても話し合う予定です。主体性やグループワークが重要なのは、教養教育も我々EX部門も同じ。全部で24人いる教員で主体的なグループワークを重ねたいと思います。



EX部門の5人のリーダーたち

宮島 謙  
特任准教授

岡田 晃枝  
特任准教授

若杉 桂輔  
EX部門長  
教授

鹿島 勲  
特任准教授

中澤 明子  
特任准教授



↑できたてはやはやのEX部門のロゴ。「3部門を統合してできたことと、若いフレッシュな芽のようにどんどん上に伸びることをイメージしました」(若杉先生)

KALS®にて



9月8日にKALSで開催された駒場アクティブラーニングワークショップ「アクティブラーニングで生成AIを活用する」では、教員有志14名が生成AIの活用事例を学び、意見交換を行いました

\*KALS=駒場アクティブラーニングスタジオ

教養教育高度化機構 (内線: 44247) KOMEX



# ぶらり 構内ショップの旅

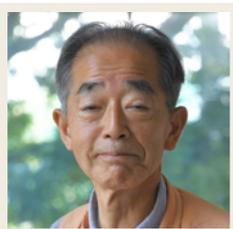
第19回

フォトスタジオ新光社 @本郷キャンパス の巻

## 自然な表情を引き出す写真館

昭和26年に本郷キャンパスで開業した「東大本郷の森のフォトスタジオ新光社」は「学術写真の老舗」としてスライド作成、コピー無き時代の文献複写等で、先生方の学術研究をお手伝いしてきました。デジタル化で写真が低迷した現在は、スタジオ撮影や出張撮影に力を入れ、学生や教職員の需要に応じています。

卒業式や学位記授与式当日には、記念写真を撮ろうと多くの学生やその家族が法文2号館地下1階にあるスタジオに来店します。そのほとんどの人が注文するのが、大学名が入



新光社店長の佐々木克也さん

った高級レーザー台紙で作る卒業記念写真(¥8000～; 普通台紙は¥6000～)。1ポーズにつき10～20枚撮影し、その中からベストな写真を選んで作成してくれます。事前予約は必須。予約開始日はホームページでお知らせされるので確認してみてください。

また、就職活動が開始する時期になると、需要が増えるのが証明写真の撮影です。コロナ禍前には、毎日4、5人の学生が履歴書用の証明写真を撮りに来店していました。写真10枚にプリント用データとWeb用切り抜きデータがセットで¥4500。今掛けているのは「ぱっと見て、人となりが分かるような写真」だと話すのは、本郷で撮影と営業を20年以上担当してきた店長の佐々木克也さん。学生たちの「自然な表情」を引き出すための佐々木さん独自の方法があるとか。

10年ほど採用面接を担当していた経験もあり、面接官に良い印象を与えられる撮影も心がけているそう。他にもホームページ用のポートレート写真、最終講義や同窓会などの出張撮影やビデオ撮影、学術写真の経験を生かしたフィルム・写真のデジタル化、名刺作成や印刷などの依頼も受け付けています。「これからお客様の自然な表情を撮影していきますので、皆様のご来店をお待ちしております」



卒業記念写真は普通台紙(左)と高級台紙(右)の2種類から選べます。営業時間●平日11時～17時(13時～14時は昼休み)

<https://www.studio-shinkosha.com/>

# #WeChange Now

第4回

男女共同参画室通信

## 「無意識のバイアス」確認シート

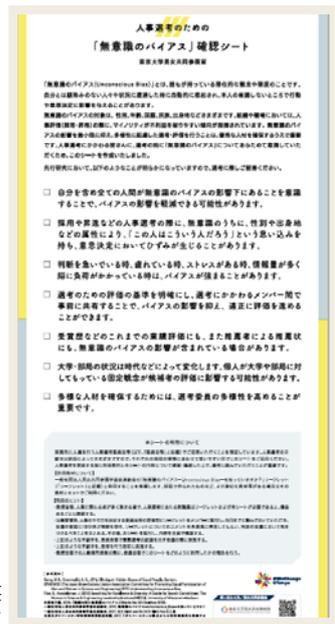
前回のコラムでご紹介しました2023年度ジェンダー・エクイティ研修「誰にでもある思い込みと向き合う」は受講していただけましたでしょうか?さまざまなご意見やご感想をいただき、ありがとうございます。すでに来年度の研修に向けて動き始めているので、今年度の研修でいただいた声を生かし、よりよい研修となるよう努めたいと思います。

さて、ジェンダー・エクイティ研修では、私たち個人ができることとして「自分にある思い込みに気づき、それをふまえ行動を変えていくこと」と紹介しました。その中でも人事評価の時にあらわれる思い込みに気づくために、男女共同参画室では2022年度末に「人事選考のための「無意識のバイアス」確認シート」を作成し、各部署に配布しました。確認シートは#WeChangeのウェブサイトからもPDFでダウンロードできますので、ぜひ活用ください。

こちらの確認シートは、「無意識のバイアス—Unconscious Bias—を知っていますか?」リーフレット(男女共同参画学協会連絡会(以下、「学協会連絡会」)を補助資料として一緒に読んでいただくことをおすすめしています(<https://www.djrenrakukai.org/unconsciousbias/index.html>)。学協会連絡会は自然科学系分野の男女共同参画を推進するために設立されました。同リーフレットは長年本学で教鞭をとられた大坪久子先生が中心となって作成されました。無意識のバイアス

について早くから注目し、女性科学者の活躍に多大な貢献をされた大坪先生は、本年7月30日ご永眠されました。ご冥福をお祈りするとともに今後とも先生のご遺志を引き継いでいければと思います。

確認シートは英語版もあります



日 <https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/contents/>  
英 <https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/en/contents/>

## ワタシのオシゴト 第210回

### RELAY COLUMN

本部安全衛生課 古屋慎一郎  
保健・健康推進チーム

### 患者じゃなくても医師と話せる仕事



「お大事になさってください」の心をこめて

本郷の保健センターにて、予算・決算や消耗品等の発注、研究費管理を含む会計業務全般に加えて窓口業務を行うことが私のお仕事です。

事務職として生活していますので、今までお医者様とお話できるのは自分が診察を受ける数

分の間だけでしたが、保健センターで仕事をしていると医師の先生と世間話をしてしまったり、保健師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、歯科衛生士などの医療職の方々とも、自分の身体ではない話と一緒に考えたり悩んだり相談することが仕事となり、ふと通勤電車の帰り道などで本当に特権だなと感じています。

窓口には、たくさんの方々がくるのですが、先日窓口対応の際に、昨年頃から勉強している韓国語と、できない英語が頭の中で混乱し、明らかに英語圏の方に、「예 (イェー：韓国語で「はい」の意味)」などと答えてしまいました。勉強しているからと言ってまったく話せない韓国語と混乱する自分の図々しさに感動さえ覚えた瞬間でした。



毎週、新大久保に留学しています

得意ワザ：困るときの方が多いかもですが「忘れる力」  
自分の性格：傷つきやすく図々しい性格  
次回執筆者のご指名：前田美貴子さん  
次回執筆者との関係：約10年間同じ部局で勤務  
次回執筆者の紹介：完璧すぎない気遣いが魅力です

専門知と地域をつなぐ架け橋に

# FSレポート!

Field Study

第27回

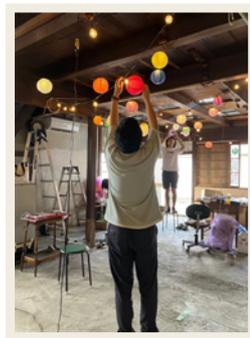
公共政策学教育部 宮岡優太  
専門職学位課程1年

### 「学び」でつながるコミュニティづくり

和歌山県紀の川市担当チームでは、「打田駅前エリアにおける空き家の利活用を通じたコミュニティの創出と関係人口の拡大」という課題に、学生5名で取り組んでいます。活動に際しては、市や県の方々に加え地域の方々、地域創生に取り組む企業の皆様にサポートしていただいています。

紀の川市は県北部に位置し、大阪へは電車でのアクセスが可能です。また春は桃、秋は柿など1年を通してフルーツ栽培が盛んで、重要文化財の粉河寺も立地する歴史あるまちです。近年は子育て世代向けの施策を打ち出すも、市全体では人口減少が続いています。一方で人口が漸増しているはずの打田駅前エリアでも、人通りがほとんど見られず賑わいを失っています。そこで今回のFSでは、地域内の人のつながりを創出することを目的に、打田駅前の空き家を拠点として、地域の人が集いたくなるイベントを開催することを目標としています。

夏休み中には、2度紀の川市を訪問しました。1度目の訪問は地域おこし協力隊制度を利用し、地域の魅力を理解することを目的に、学生によっては1週間程度滞在しました。市の特産物を取り揃えた直売所などを訪問し、紀の川市の歴史や特色ある産業について学び、



地域の祭りをお手伝い 古民家を飾り付け

地域おこしの拠点となる古民家での活動も行いました。2度目の訪問は、9月下旬に行いました。ここでは、チームとして行うイベントについてディスカッションを行いました。また和歌山大学の学生と共に紀の川市内を巡り、市の魅力や地域おこし活動の課題について話し合いました。

担当チームでは「学び」をテーマに、地域の小学生から、生涯学習に関心のある大人世代までをターゲットとしたイベントを企画・運営することを目標としています。テーマについては、学ぶことの意義や楽しさを伝えることが東大生に最も期待されるであろうこと、市の方が家庭ごとの教育格差が目立つようになったとおっしゃったことをきっかけに決定しました。ご協力いただく皆様への感謝を忘れずに、地域の方々から自然と集まりたくなる拠点づくりができるよう、全力で地域に向き合います。

※メンバーはほかに本田柊稀（理二1年）、緒方佑太郎（理一2年）、中間悠介（文一2年）、太田創（建築3年）

# インタープリターズ・第195回 バイブル

理学系研究科准教授 鳥居寛之  
科学技術コミュニケーション部門

## AI倫理と知の中央集権

ChatGPTをはじめとする生成AIの飛躍的な進化は世界に大きな衝撃を与えた。人類の知的活動を支える言語を巧みに操り、対話相手が生身の人間でなく機械であることの判別すら困難なレベルに到達している。ネット上の膨大な言語データを学習し、数千億ものパラメータを自動的に調整することで、様々な分野の問いかけに流暢に返答するだけでなく、文章の要約や翻訳、さらには絵画などの創作まで可能になった。

もともとヒトの脳神経の結合を模したニューラルネットワークモデルは半世紀以上前に提唱されていたものの、近年急速に発展したのはビッグデータとコンピュータ能力の飛躍的な進展に依るところが大きい。パラメータの桁数を増やすことで、劇的に賢くなったという。こうした生成AIがやっていることは、本質的には次の単語を予測するという単純なタスクに過ぎないのだが、それだけでなぜ様々な創発的能力を獲得したのか、誰にもまだわからない。翻って、人間の知能そのものが未解明なわけだが、人類の思考や文化的活動が押し並べて言語を基盤として成立しているということか、あるいは脳の認知機能の延長線上に言語が存在するということか。AIの進化が、人間とは何かという根源的な問題にヒントを与えてくれると期待したい。

鉄腕アトムやドラえもんなど、ロボットと人との共生を題材にした漫画に親しんできたからか、あるいは便利だからいいという実利主義からか、日本ではAIに好意的な受け止めが多い一方で、欧米からは、キリスト教的世界観に基づく嫌悪感も手伝ってか、AIの脅威に様々な懸念の声や規制の必要性が訴えられている。ただ、AI利用に関して著作権の問題や、ハルシネーションに代表される誤情報に対する倫理的問題が、人類が新たに向き合うべき課題であることは間違いない。

また、生成AIの開発には巨額の投資が必要で、世界的巨大企業が覇権を握る構図となっている。同じくフェイク情報の問題が深刻になっているSNSにおいても、世界中の億万の民が使うサービスが急激な変容を見せている。人員整理で情報の質を守る対策がおろそかになっただけでなく、科学者には無料で提供されていたデータが高額になり、Twitter (X) を利用した情報・社会科学の研究が困難になったとの嘆きも聞く。巨万の富を手にした一個人が世界の情報の流れを牛耳っていいのかという疑問とともに、知識の中央集権化に対する懸念は、人間とAIとの対峙という前に、人間同士で考えるべき喫緊の課題と言えるだろう。

科学技術インタープリター養成プログラム

# ききんの き

寄付でつくる東大の未来

第49回

本部渉外課戦略チーム

右田美奈

## 想いをのせた寄付者銘板

みなさんは、安田講堂に「寄付者銘板」が掲示されていることをご存じですか？東大基金では、ご寄付に対する感謝のしるしとして、寄付者のお名前を刻んだ「寄付者銘板」を作成し、安田講堂に掲示しています。その数およそ5,700名分！私は、4月から現部署で銘板作成に携わるまで、安田講堂に銘板が掲示されていることも、そもそも銘板が何たるかもまったく知りませんでした。

東大基金では寄付額に基づき称号が付与されますが、銘板は、貢献会員（寄付額30万円～）以上の方を対象として作成しており、称号により色・大きさなどの仕様が異なります。この寄付額は「累計」でのカウントとなるため、一度の大きな金額の寄付でなくても、寄付を積み重ねて作成対象となったり、ランクアップしたりすることも可能です。

銘板の作成に携わっていると、一口に「寄付」といっても、そこにはさまざまな想いを持った寄付者がいらっしゃることを感じます。こつこつと何年もご寄付を続けてくださっている方、母校や後輩のために支援してくださる卒業生、お子様が入学・卒業された保護者の方、亡くなったご家族の大切な遺産を寄付して下さるご遺族の方、本学の多様な事業を支えてくださっている法人や団体…こうした皆さまの想いが寄付という形でつながり、本学の日々の教育・研究が支えられていることを改めて実感し、身の引き締まる思いになります。

先日開催されたホームカミングデイでは、銘板を自由にご覧いただく機会として銘板見学会を実施しました。350名近くの方が来場され、ご自身やご家族の名前が刻まれた銘板を見つけて喜んでいらっしゃる姿、銘板とともに記念撮影をされている姿、銘板を見ながら思い出話に花を咲かせていらっしゃる姿があちこちで見られました。皆さんもぜひ、機会があれば安田講堂の銘板をご覧になってみてください。銘板に刻まれた方々がどのような想いを持って寄付して下さったのか、思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



ホームカミングデイでの銘板見学の様子

寄付者銘板の詳細はこちら↓から



東京大学基金事務局（本部渉外課）  
kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

**トピックス** 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル (一部省略している場合があります)
10月13日	新領域創成科学研究科	「走行中給電の公道実証実験出発式」を開催
10月16日	理学系研究科・理学部	「アト秒パルス光を発生する実験的手法」にノーベル物理学賞
10月16日	医科学研究所	奄美病害動物研究施設 改築記念シンポジウムを開催
10月16日	本部渉外課	「スキルス胃癌」「胆膵癌」「大腸癌」に関する基金の寄付募集を開始
10月17日～ 11月7日	広報室	新たな免疫療法で犬のがんを治療する＝中川貴之   問題行動の解決を通じて犬と人が共に暮らしやすい社会へ＝山田良子   犬型ロボット、トンネルの建設現場で活躍＝山下淳   本郷で出土した犬の骨から見える江戸時代＝阿部常樹 犬にまつわる東大の研究(1)-(4) / 広報誌「淡青」47号より
10月19日	広報室	囲碁・音楽とAI——創造性をめぐる異分野間対話【特集 AIと人間社会 Vol.1】
10月20日	本部学生支援課	漕艇部が全日本新人ローイング選手権大会舵手付きフォアで銀メダル獲得!
10月20日	本部渉外課	ヤマサ醤油とネーミングプランの協定を締結
10月24日	本部学生相談支援課	2024年度大学卒業・修了予定者の就職・採用活動について(要請)
10月27日	教育学研究科・教育学部	大学院教育学研究科・教育学部留学生懇談会を開催
10月27日	広報室	救急医療の現場にDXを起こし、「医療データで命を救う」 Entrepreneurs 21
10月30日	物性研究所	高強度レーザーとアト秒科学
11月1日	東京カレッジ	江間有沙准教授、国連のAI諮問機関メンバーに選出
11月2日	本部協創課	デジタルオブザーバトリ研究推進機構フォーラム(10/10)開催報告
11月6日	柏地区共通事務センター	東京大学柏キャンパス一般公開2023を開催
11月6日	本部広報課	令和5年度文化勲章受章・文化功労者顕彰
11月7日	情報理工学系研究科	学生交流イベント「IST Grand Gathering 2」を開催
11月8日	本部渉外課	チアドネ～みんなで広げる東大応援の輪～の募集を開始



## CLOSE UP 江間有沙准教授が国連のAI諮問機関メンバーに

(東京カレッジ)



2021年東京大学卓越研究員でもある先生

東京カレッジの江間有沙准教授(科学技術社会論)が、国連のAIに関する諮問機関の構成員として選出されました。国連のアントニオ・グテレス事務総長が招集した、AIに関するマルチステークホルダーによるハイレベル諮問機関です。

この諮問機関は、128カ国、1,800名以上の候補者から選ばれた39名の専門家によ

て構成されており、日本からは今回、ソニーグループ執行役専務兼CTOの北野宏明氏と江間先生のお二人が選出されました。今後、2024年9月に開催される予定の国連未来サミット(Summit of the Future)に向けて、AIの国際ガバナンスに関する分析と勧告を進め、AIのリスクと不確実性に対処するための多様な視点や選択肢を提示することとなります。

## 本年秋の褒章について

谷口維紹名誉教授(医学系研究科・医学部)、岩井克人名誉教授(経済学研究科・経済学部)が、令和5年度文化勲章を受章しました。また、宮園浩平名誉教授(医学

系研究科・医学部)、吉川洋名誉教授(経済学研究科・経済学部)、河口洋一郎名誉教授(情報学環・学際情報学府)、河岡義裕名誉教授(医科学研究所)、荒川泰彦名

誉教授(生産技術研究所)が、令和5年度文化功労者として顕彰されました。この度は誠にありがとうございます。紹介記事とお写真はウェブでご確認ください。

## 銀杏葉舞う切子グラスで寛ぎのひとつときを!

淡い琥珀色に伝統的な江戸切子の技法でオリジナルの銀杏の柄がデザインされたグラス。グラスの底にはUTokyoマークが刻印されており、上品なデザインに仕上げ

ました。手に馴染む小ぶりなサイズでお酒やお茶などお好きな飲み物を楽しめます。外国の方への日本土産や東京大学の記念品としてもおすすめのお品です。



直径74mm  
高さ74mm  
容量160ml

UTCCからのお知らせ  
utcc.u-tokyo.ac.jp

UTokyo

江戸花切子 琥珀ミニオールド  
ファッションングラス 銀杏(化粧箱入り) ¥12,000(税込)





**CLOSE UP 「走行中給電の公道実証実験出発式」を開催** (新領域創成科学研究科)



(上) 左から大崎教授、藤本教授、太田市長、藤井所長。(下) 実験車両を説明する藤本教授とローアングルで狙う報道陣

10月3日、柏の葉キャンパス駅前サテライトおよび三井ガーデンホテル前の広場にて「走行中給電の公道実証実験出発式」を開催しました。新領域創成科学研究科の藤本・清水研究室では、2018年より複数の企業・大学等と共同で走行中の電気自動車（EV）にワイヤレスで充電をする技術開発を行ってきました。このたび、柏市の協力により、日本で初めて、公道での実証実験を開始しました。

出発式には、柏市市長の太田和美氏、国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所所長の藤井和久氏らが参列し、約40名のメディア関係者が集まりました。記者発表では、柏市役所土木部交通政策課の藤田直広氏より、柏

の葉スマートシティ周辺の沿革や柏の葉国際キャンパスタウン構想と本実証実験の概要の説明がありました。続いて、新領域創成科学研究科の藤本博志教授、清水修准教授が、走行中給電システムについての概要と、本プロジェクトの特徴、国際的な開発動向においての本研究の優位性、安全性の検証結果について説明し、社会実装に向けてのロードマップを示しました。最後に、JST未来創造事業 研究開発運営会議委員の大崎博之氏（新領域創成科学研究科 教授）から挨拶がありました。

この実証実験は、東京大学、柏市、その他関係機関と「柏ITS推進協議会」の枠組みにより、2025年3月まで実施される予定です。



**CLOSE UP 奄美病害動物研究施設改築記念シンポジウムを開催** (医科学研究所)



10月4日には第3棟の内覧会、7日には市民公開講座も行われ、地元自治体関係者や一般の方々も参加しました

奄美病害動物研究施設は、東京大学の保有する日本最南端の国際共同利用研究拠点です。古くはフィラリア症やハブ咬症の治療法の開発等の成果をあげ、現在は奄美の気候に適應した新世界ザルのコロニーを維持し、熱帯感染症の克服を目指した研究を行っています。

今年6月に研究施設第3棟の改築工事が竣工し、霊長類を用いた蚊媒介性の感染実験が可能な施設が完成しました。これを記念して、10月5～6日に「奄美病害動物研究施設 第3棟 改築記念シンポジウム」が奄美大島のア

マホームPLAZAにて開催されました。

医科学研究所の中西真所長、川口寧副所長、大気海洋研究所の兵藤晋所長らも講演したシンポジウムには100名以上の研究者が集まり、医科学研究や海洋生物研究やハブ研究などの奄美病害動物研究施設に関連した様々な分野の講演34題、ポスター26題が発表され、分野横断的なディスカッションがなされました。奄美病害動物研究施設の真下知士施設長から本シンポジウムの継続的な開催が述べられ、閉幕となりました。



**CLOSE UP 学生交流イベント「IST Grand Gathering 2」を開催** (情報理工学系研究科)



創造的展開プロジェクトでは、研究科の活性化に関心のある学生を卓越RAとして採用し、これからの研究科を若手目線で創造することを目指しています

情報理工学系研究科の創造的展開プロジェクト（IST Creative Evolution Project）は、10月27日に、研究科所属の修士課程から博士課程の学生のネットワーキングイベント「IST Grand Gathering 2 by IST Creative Evolution Project」を開催しました（2022年に続き2回目の開催）。

当日は学生とプロジェクトメンバーなど27名が本郷のHaseko Kuma Hallの1階ラウンジに集まりました。企画は全7名の卓越リサーチアシスタント（卓越RA）によるもので、事前の研究科学生向けのアンケートを基に硬

軟取り混ぜたプログラムを用意。岩田寛副研究科長のアイスブレイクを皮切りに、紙飛行機に書かれたメモを頼りに自己紹介をし合いながら書いた本人を探し当てるゲーム、澤山正貴講師の「研究紹介」とVO MINH DUC特任助教の「ワークライフバランス」の講演など、2時間半のプログラムに飽きる暇はありませんでした。終わるころには参加者間で自主的に連絡先の交換が行われ、学生コミュニティの形成に大いに役立ちました。参加者たちは新たな出会いを学びだけでなく豊かな環境作りの一助にすることでしょう。

**「東京フォーラム 2023」が開催されます**

11月30日（木）～12月1日（金）、「東京フォーラム 2023」が開催されます。本学と韓国・崔鐘賢学術院が共同で行う国際会議シリーズで、今年で5回目。今回のテーマは「社会的分断とデジタル革新の時代における人間性の再興」です。基調講演は、東大名誉教授の藤原帰一先生、カリフォルニア大学バークレー校のアリソン・ゴブニック

先生、チュラロンコン大学のスリチャイ・ワンゲオ先生。「ロボットが投げかける問い——人間性とは何か?」「社会的分断への架橋」がテーマとなるパネルディスカッション、5大学の学長が「デジタル革新の時代における大学の役割」を話し合う学長セッション、日韓の学生によるユースセッションにも注目です。www.tokyoforum.tc.u-tokyo.ac.jp/



要事前登録。お急ぎ下さい。





## 刺激的な日々

年齢を重ねるにつれて、自分の性格や嗜好を言語化できるようになってきた。私の場合、良くも悪くも刺激を好む性格のようだ。山に登る、スキーをする、良い車に乗る、しなくても良い喧嘩をする、ほとんどが過去のことだが、無意識に刺激を求めてきたのだと思う。こういう性格が表に出ると周りの人はたまらないが、今はそれを平然と隠すことができるし、教授室の殻にこもれば周りに被害を及ぼすことも無い。ただ、同じような嗜好を持つ人を何となく嗅ぎ分けることはできる。

そんな私にとって、東大教員ほど幸せな身の置き場は無い。自身の過去を振り返ってもどこで何が起こったためにこんな幸運に恵まれたのか説明できないのだが、日々、意味のある新たな刺激がある。逆に意味を感じない刺激を無視しても、あまり周りから文句も言われなくなった。

この幸福感の多くの部分を作ってくれているのが、極めて能力の高い学生や研究室スタッフたちと、彼ら彼女らが見つけてくる研究上の新たな発見である。一を聞いて十を理解する学生、こちらから言わなくても意識せず

にハードワークができる学生、こんな感じでやりたいとざっくりと提案すると少し考えますと言ってしばらくすると具体化の糸口を返してくる学生、未踏領域に恐れもせず一緒に飛び込んで行ってくれる研究室員、などなど、研究室員の優れた点を挙げると枚挙に暇が無いが、こういった組織に所属していて豊かな人生感と感謝を感じない人間が居ようか。人的資源が優れている点において東大は、間違いなく世界トップクラスである。

東大はこの最大の強みを、社会にもっとアピールすべきだと思う。これをアピールしても世間から僻まれて足を引っ張られることは無いだろうし、逆にそれだけ恵まれているのに何故もっとできないのかと叱咤激励をいただけると思う。VUCAの時代において社会から東大への期待は大きく、滾々と湧き出る世界レベルの豊かな人的資源を大切にすることが、この国が世界トップと比肩し続けるための鍵であるような気がしてならない。

金井 求  
(薬学系研究科)

